

# ひなぼと



～NPO法人ピピオ子どもセンター

会報～  
vol. 33

2021年5月19日

## ピピオ子どもセンター設立10周年を迎えて

私たちピピオ子どもセンターは、本年、設立10周年を迎えました。

私たちは、虐待など様々な事情で生活できる居場所がなく困難を抱えた子どもたちに対し、安全で安心して過ごせる居場所を提供し、その子の自立を支援していこうと、子どもシェルター「ピピオの家」を開設し、活動をスタートしました。

この子どもシェルター設立のきっかけとなったのが、2010年4月に行われたこの子どもの日記念シンポでした。当時、生活できる居場所がなく困難を抱えた子どもらの対応に悩んでいた私たちは、東京や名古屋、横浜、そして岡山に居場所のない子どものためのシェルターがあることを知り、広島にもこのような施設があればいいなど考えていました。そのような中、2010年4月に子どもシェルターをテーマに演劇などを内容としたシンポジウムを行ったところ、多くの市民の方々の共感をいただき、それら市民の皆様の手を結集して翌2011年1月にNPO法人を設立し、同年4月に「ピピオの家」を開設して活動をスタートしました。

この10年の間、様々な困難がありました。時には、シェルターや自立援助ホームを一時期休止したこともありました。しかしながら、会員の皆様を始め多くの市民の皆様からの暖かい励ましと真心からの支援に支えられ、今日まで活動を進めていくことができました。改めてご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

この10年の間、様々な子どもたちがピピオに居場所を求め、巣立っていきました。ピピオにたど

りつく経緯も様々なら、子どもたちの個性もいろいろで、中には精神的にも不調を訴え、また自分なんか生まれてこなければよかったと思っているような子もいました。

このような子どもらと接する日々は、試行錯誤の連続でしたが、このような関わりが困難な子こそ、ピピオでその子に寄り添い、関わっていかなければ、無理解な社会の中で行き詰まり、悪循環に陥ってしまうことになります。

その意味で、私たちは忍耐強く、試行錯誤しながら、また仮に一時的にはいい方向にいかなくても我々の関わりが、暗闇にいたこのような子らに、自分はいっているんだ、生きていこう、という生きる力を少しでも取り戻していく契機となると信じて、粘り強く寄り添っていくことが大切だと思います。

現在、子どもの福祉にもスポットがあてられ様々な子どものための政策が行われてきておりますが、いま現在、子どもシェルターにたどり着いてくる子どもたちは多くいます。

私たちは今後も、この原点を大切にして活動の歩みを進めていきたいと思っております。

設立10周年の節目を経て、私たちは活動の歩みを始めた当初の熱い思いを思い起こし、新たな決意で、力を合わせて粘り強く歩みを進め、さらに活動の輪を広げてまいりたいと考えております。どうぞこれからも、私どもの活動に暖かい目を向けていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

理事長 鵜野 一郎

当法人は本年で設立10周年を迎えました。10周年を迎えることが出来ましたのも、ひとえにみなさまのご支援とご協力のお蔭と思います。心から厚く御礼申し上げます。

私は、当法人理事を拝命してから、ピピオ当理事や消費生活アドバイザーとしてピピオを卒業する子どもへのマネー講座を実施してきました。

マネー講座とは、子どもにお金との付き合い方を考えてもらうものです。お金を得るための方法や使い方、管理の仕方を子どもと対話しながら学び合っています。ともすれば、日本ではお金の話をすることを避けるところがあります。「お金は汚い。」「カネ、カネ言うな。」との声をしばしば耳にします。しかしながら、誰ももお金との関係無くして生きることはできません。何かしようと思えば、必ずお金が付いて回ります。私は、お金と上手く付き合うことは人生を豊かにし、お金の悩みからも自由になれると考えており、子どもにもそう伝えております。

子どもと話していると、「読み書きそろばん」といった基礎学力が身に付いていないことを感じることがあります。理由としては、様々な事情から学校に通えなかった、あるいは授業についていけなかったことが挙げられます。学ぶ機会が十分では無かったとも言えます。それが必ずしも子ども本人の責任でないにも関わらず、人生の選択肢が狭まってしまうことがままあります。それは

「良い学校に行って、良い会社に入れば、良い人生が待っている。」、世間は未だにこうしたおとぎ話に囚われ、そこから外れると落伍者になるかのように、子どもも大人も錯覚しているためです。学ぶことの意義がはき違えられ、子どもたちが苦しんでいることを悲しく思います。自戒を込めて、大人の不明を恥ずかしくも思います。

学ぶことの意義は、知らないことを知る喜びと成長です。学びにおいて大切なのは意欲です。いつでも学ぶことは始められます。学ぼうと思えば、どこでだって誰からだって学べます。学ぶこと、とりわけお金と上手く関われることは、自由になれることを意味します。自由な発想を持った子どもたちが自分で稼げる大人になり、世の中をたくましく生きていけるようになること、私はそれをマネー講座を通じた学びの目標としています。

「学びを楽しむことが人生を拓く。」子どもたちがそんな思いを抱けるようになって欲しいと心から願っています。「持続可能な開発目標 (SDGs)」の4番目として「質の高い教育をみんなに」ともあります。みなさまも身近な子どもたちとの学びを楽しんで欲しいと思います。これは個人で取り組めるSDGsです。子どもたちの学びによる成長は、未来への希望です。子どもたちの自由な発想が明るい未来を築きます。「誰一人取り残さない未来」を築けるのも、子どもたちなのです。

理事 掛 幸太

## こどもの日記念シンポジウム 2021

2021年4月25日日曜日、こどもの日記念シンポジウム2021を開催しました。

今年は、NPO法人ピピオ子どもセンターの設立及びピピオの家開設10周年の節目に当たることもあり、「子どもシェルター」をテーマとしたシンポジウムを実施しました。

昨年は新型コロナウイルスの影響により残念ながらシンポジウムは中止となってしまいました。今現在もいまだ新型コロナウイルスの影響は収まりませんが、毎年シンポジウムを楽しみにいただいている来場者の皆様のためにも、何らかの形で開催をしたいとの決意を胸に実行委員会にて情勢を見定めつつ方法を模索した結果、今年はオ

## 「子どもシェルターピピオの歩み」

ンラインでの開催をすることとなりました。

第1部では、ピピオの家の中での出来事を題材とした全4話のオムニバス劇を、例年参加いただいている4校に1話ずつ担当をしていただく形で上演をしました。

脚本を担当した立場から申しますと、テーマについて知っていただくことはもちろん、劇としても楽しんでいただくことに毎年心を砕いているところですが、今年は例年とは異なる形式に特に悪戦苦闘しました。



もつとも、拙い脚本を補って余りある高校生の皆さんの熱意と技術には、例年のことながら本当に頭が下がる思いです。ご覧いただいた方から劇についてのアンケートで良かったとの評価をいただけたのは、高校生の熱意と技術のなせる業だと思います。



劇の前後には、ピピオの家とはばたけ荘の紹介映像と同所を退居した子どもたちの声をお届けしました。退居した子どもたちの声は、胸にじんときてこれまで活動を頑張ってきて良かったと再確認いたしました。

第2部では、坪井節子弁護士による講演をいただきました。子どもシェルターは、元々、東京弁護士会にて毎年行われている子どもと弁護士に

よる演劇「もがれた翼」にて「こんな施設があったらいいな」と描かれた架空の施設でした。それが、見に来られた方々から「是非とも必要だ」の声を受け、数年後に現実に誕生したもので、坪井先生はその際の劇の脚本を担当しておられました。坪井先生のお話に開始直後から引き込まれ、60分の時間もあっという間でした。実際に子どもシェルターの設立や各地への普及、制度の拡充に取り組んでおられる坪井先生の言葉の重みや人柄の温かさを随所に感じられるとても素晴らしい講演でした。

今年は、当日のライブ配信での閲覧者が約150名、また、後日のアーカイブ配信が700回以上再生されるなど、多くの方にご覧いただくことができました。例年会場まで足を運ぶことが困難な方も今年はオンラインなので参加できたとお声もいただきオンラインならではの強みも実感しました。他方で、やはり演劇は生の舞台で行いたいという思いもまた強く持ったシンポジウムになりました。

来年どのような形で開催できるか未定ですが、是非また見に来ていただけますと幸いです。

弁護士 川崎 浩介

## スタッフ通信

はばたけ荘のスタッフのSです。

私事ではありますが去年4月より、他のスタッフの方々の協力も得ながら、福祉の通信制の専門学校に通っています。今年で27歳ですが、大学は経済学部卒で、今まで「福祉」について机に向かって勉強することは皆無でした。

実際に「はばたけ荘」でスタッフとして子どもたちと関わるなかで、勉強したことが活かせるかと問われれば、教科書通りには上手くはいかないのが現実です。私の当初のひねくれた考えでは、『実際の経験に勝る勉強は無い』と思っていました。ただ、学術的な知識を学ぶことによって、過去の出来事を振り返った時に「あれはこういうことだったのかもしれない」「あの時あすれば良かったかもしれない」と感じる場面が多々あり、考えが改まった次第です。

逆に机で学んだ“知識”だけではどうしても出来ない壁を感じることもあります。例えば、普段悩みや相談事をあまり口にしない子が、夕食づ

くりをしてくださるボランティアさんには何気なく悩みを零したりする場面があり、それは我々スタッフでは出せない温かみがあるからだと感じるのです。子どもとの「距離感」というのも、机の上で学ぶ事は難しい事柄です。近すぎず、遠すぎず、いい塩梅の距離感というのは実際の距離の様に数値化できるものでもありません。特に私の場合は、子どもたちとの年齢差で言えば兄弟であってもおかしくないくらいですので、スタッフの立場として『友達感覚』になってしまわないように気を配る必要があります。

日々、子どもたちと接する中で、そういった考えや思いを巡らせながらも、最終的にたどり着くのは「絶対的な正解は無い」という結論です。だからこそ難しくもあり、面白いのだと思います。「はばたけ荘」に入居している子どもたちが自立し、大人になって「あんな生活もあったよねー」と青春の1ページのように思い、語ってくれる日が来れば良いなと切に願っております。

## 第11回ボランティアスタッフ養成講座（オンライン）のご案内

本年6月9日から7月28日にかけて第11回ボランティアスタッフ養成講座を開催します。

当センターでは、子どもシェルター「ピピオの家」と自立援助ホーム「はばたけ荘」の運営にあたり、多数のボランティアスタッフの皆さまにご協力をいただいています。

ボランティアスタッフに応募される方にはこの養成講座（全8講）を受講していただくこととされていますので、別紙の募集案内をご覧ください。この講座は、公益財団法人マツダ財団との共同

事業であるスタートラインプロジェクトの一環として開催しており、子どもの問題に関心のある方にも参加を呼びかけるとともに、現在ボランティアスタッフや子ども担当弁護士として関わっている方のスキルアップも目的としています。

昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大の状況からやむなく中止しましたが、今年度はZoomを利用したオンラインで開催します。（定員10名）

皆様の応募をお待ちしておりますので、よろしくお願いたします。

### ピピオ掲示板

#### 共同募金・社会課題解決プロジェクトへのご協力ありがとうございました

ひなばとvol.32でご案内しました2021年1月から3月末日までに行われた広島県共同募金会による社会課題解決プロジェクトに対し、多数の方々にご協力頂きました。106件もの募金を頂戴し、広島県共同募金会を通じて、139万9620円の配分金をいただくことになりました。

今年も新型コロナウイルスの影響により街頭募金を中止するなど募金活動への影響はありましたが、それにもかかわらず、多くの皆様のご協力をいただき、ピピオの活動に対する大きな期待を感じております。

いただいた配分金は、「ピピオの家」、「はばたけ荘」に入居する子どもたちの自立に向け、有効に活用させていただきます。

この場で御礼申し上げます。

#### 寄付等のご協力ありがとうございました

国際ソロプチミスト広島-もみじ様、高橋様、温泉川様、高野様、川崎様、向田様、清水様、普家様、広島県小児科医会様などから寄付金、生活用品等を頂いております。日々子どもたちの生活や自立支援のために活用させていただきます。

#### 生活用品の募集について

一人暮らしを始める子どもたちへの生活用品の提供についてご協力をいただき、ありがとうございます。現在、次の家電品・家具を募集しています。（家電品は製造から3年以内でお願いします。）

- ・冷蔵庫（高さ110cmくらいまでのもの）
- ・洗濯機
- ・組立式のベッド

ご寄付でいただけるものがあれば、事務局までお知らせください。

発行者 特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター 事務局  
〒730-0014 広島市中区上幟町2番36号 S・ウィングビル505号  
TEL: 082-221-9563 FAX: 082-555-3659  
ホームページ: <http://www.pipio.or.jp>